

### 今月のトピックス

東京都で麻しんの報告数が増加しています。横浜への波及が心配されます。  
風しんの報告が4例見られました。4例とも成人例でした。  
インフルエンザによる学級閉鎖が4月に2件見られました。流行の状態は横ばいです。

### 全数把握の対象

- 腸管出血性大腸菌感染症:** 1例の報告がありました。感染源は不明です。感染経路については不明です。腸管出血性大腸菌感染症の発生時の対応については、横浜市衛生研究所 HP をご参考ください。  
[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infc\\_o157\\_guide.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infc_o157_guide.html)
- マラリア:** 1例の報告がありました。熱帯熱マラリアでした。ギニア共和国での感染と思われます。世界的に耐性マラリアが問題になっています。治療薬については、熱帯病治療薬研究班 HP をご参考ください。  
<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/parasitology/orphan/HTML/page5.html>  
マラリアについては、国立感染症研究所 HP をご参考ください。  
[http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k05/k05\\_04/k05\\_04.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k05/k05_04/k05_04.html)
- 麻しん:** 4例の報告がありました。麻しんの排除を目指して、麻しん患者が減少していくなかで、検査診断は非常に重要です。麻しん特異的 IgM 抗体検査やペア血清による特異的 IgG 抗体検査等抗体検査が多く用いられていますが、疫学調査のためには、ウイルスの遺伝子型等性状が把握できるウイルス分離や、PCR のような遺伝子診断が望ましく、検査のためには、感染の早い時期に血液、咽頭ぬぐい液、尿といった検体を採取することが求められます。麻しん排除のためには全ての年齢で 95%以上の抗体保有率が求められますが、平成 21 年度の全国感染症流行予測調査ではこのレベルに達していないのは、0~1歳を除くと、10 歳、15 歳のみであり、 期、 期の予防接種の効果が現れています。麻しんについては、横浜市衛生研究所 HP をご参考ください。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/measle1.html>  
市内の麻しん届出数は、平成 20 年は 1485 例、平成 21 年 43 例、平成 22 年 32 例でした。平成 19 年、平成 20 年と、東京都を発として、首都圏に広く麻しんの流行が見られ、平成 20 年には全国麻しん届出数は 11015 例でしたが、平成 21 年には 739 例、平成 22 年には 455 例と続けて減少しました。日本国内の状況では、今年第 16 週までに 146 人の患者が報告されています。東京都が 51 人と約3分の1を占めています。今年になって、東京都で検出された麻しんウイルスは 24 件(D4 型 16 件、D9 型 8 件)で、D4 は欧州から(1月)、D9 は東南アジアからの輸入例でした。現在、渡航歴の無い患者からも検出されていて、輸入例からの広がり危険されます。横浜市への影響も、監視していく必要があります。東京都の麻しんウイルス検出状況につきましては、国立感染症研究所 HP をご参考ください。  
<http://idsc.nih.go.jp:80/iasr/rapid/pr3752.html>
- 風しん:** 4例の報告がありました。4例とも成人例です。2010 年、風しんの届出は、全国では 89 例、横浜市内は3例でした。今後の横浜市の風しん発生状況に注意が必要です。風しんについては、横浜市衛生研究所 HP をご参考ください。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/rubella1.html>
- HIV 感染症:** 4例の報告がありました。2例は男性の同性間性的接触によるものです。2例は女性の異性間性的接触によるものです。全国でも数年来、男性の同性間性的接触での感染が多く見られています。HIV 感染症については、横浜市衛生研究所 HP をご参考ください。  
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>

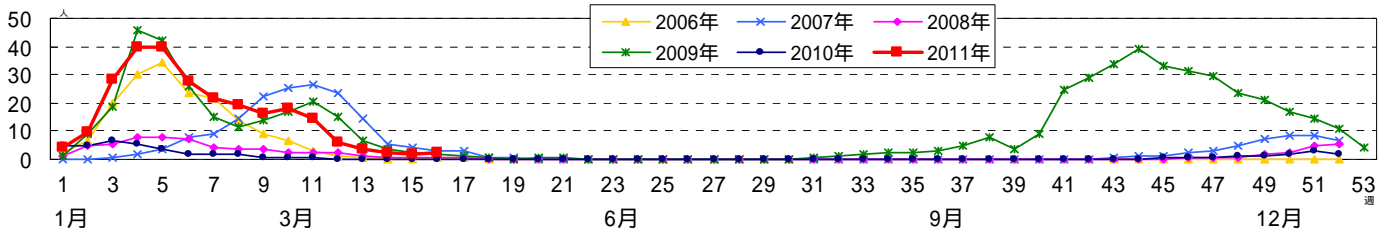
## 定点把握の対象

平成 23 年 3 月 21 日から 4 月 24 日まで(平成 23 年第 12 週から第 16 週まで。ただし、性感染症については平成 23 年 3 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

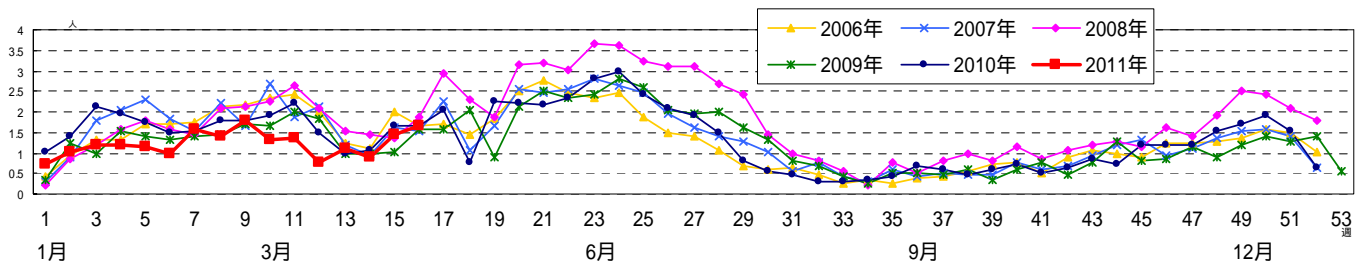
平成 23 年 週 - 月日対照表

第 12 週	3 月 21 ~ 27 日
第 13 週	3 月 28 日 ~ 4 月 3 日
第 14 週	4 月 4 ~ 10 日
第 15 週	4 月 11 ~ 17 日
第 16 週	4 月 18 ~ 24 日

- 1 **インフルエンザ**: 第 16 週は定点当たり 2.35 で、第 15 週の定点あたり 2.04 に比べ微増しています。全国 7.56、神奈川県 3.41、東京都 5.43 です。全国の第 15 週は 6.42 であり、全国的にも広く微増しています。長野県 25.51、福井県 19.47、石川県 17.29 が高めです。市内行政区別では瀬谷区 8.50、金沢区 3.57、戸塚区 3.56 が高く、年齢層では 9 割が 20 歳未満です。4 月に入り、市内ではインフルエンザによる学級閉鎖が、2 つの小学校から報告されていることもあり、引き続き低年齢の集団感染には注意を要します。迅速キットの内訳は A 型 17 件、B 型 230 件です。

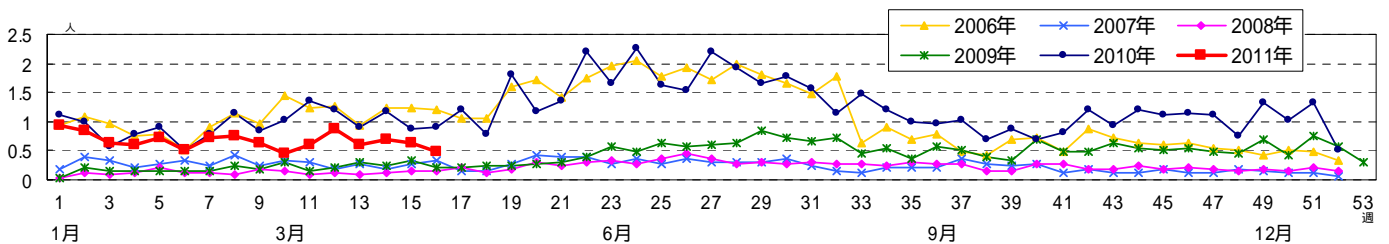


- 2 **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第 16 週は定点あたり 1.68 です。全国 2.33、神奈川県 1.83、東京都 2.76 です。行政区別では、瀬谷区 6.25、港北区 3.29、緑区 3.25、泉区 3.00 が高めです。例年初夏からの流行が見られるので、今後の動向に注意が必要です。



- 3 **感染性胃腸炎**: 第 16 週は定点当たり 6.41 です。全国 9.30、神奈川県 6.72、東京都 9.17 です。鹿児島県 18.18、富山県 17.59、愛媛県 17.41、福井県 17.27、大分県 15.69 が比較的高めです。行政区別では神奈川区 14.50、戸塚区 11.80 が高めです。なお、4 月の定点からの検出状況は、3 検体中 A 群ロタウイルス 2 件でした(ノロは検出なし)。

- 4 **流行性耳下腺炎**: 第 16 週は定点当り 0.49 です。全国は 0.78、神奈川県 0.39、東京都 0.23 です。2010 年は市内では 5 年ぶりの流行の年となりましたが、今年に入り漸減し、落ち着いてきています。



- 5 **性感染症**: 性感染症は、産婦人科系の 10 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 17 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。3 月は性器クラミジア感染症が男性 19 件、女性 13 件。性器ヘルペス感染症が男性 5 件女性 7 件。尖圭コンジローマが男性 6 件、女性 2 件。淋菌感染症が男性 6 件女性 1 件でした。

- 6 **基幹定点週報**: 細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告は、今年に入って 1 件もありません。マイコプラズマ肺炎は、第 4 ~ 6 週に計 4 件ありました。

- 7 **基幹定点月報**: 3 月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症男性 13 件女性 8 件計 21 件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 0 件、薬剤耐性緑膿菌感染症男性 1 件計 1 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 0 件でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>